

作成日 平成21年10月1日
改訂日

標準施工仕様書

製品名 グッセラGハイシー

仕様 ノントップ仕様

山本窯業化工株式会社

技 術 部

製品概要

JIS表示	JIS A 6909 外装合成樹脂エマルジョン系薄付け仕上塗材(外装薄塗材E)(相当品)
特記	高耐候型形状再現型陶石微細粒ローラー仕上
用途	住宅・マンション・事務所・店舗・学校・その他の建築物(新築・改修)の内外壁面。 コンクリート面・セメントモルタル面・プレキャストコンクリート部材・ALCパネル・その他各種板・ボード [®] 類等。
適用下地	シート状砂岩、サイディングボード [®] (窯業系)、コテ塗り仕上(樹脂系、石材調、セメント系)、凹凸仕上(アクリルスタッコ、吹付タイル、弾性タイル)等の旧下地。
適用箇所	屋内・屋外壁面
施工不可部位	天端(笠木・手すり・セットバック等)や幅木、パラペットへの施工は避けて下さい。

施工上の注意事項

- 1 下地調整の工程は塗装工事における責任範囲には含まれません。
- 2 養生テープは塗膜厚を考慮して、強度の高いものを使用して下さい。
- 3 コンプレッサーは3馬力以上のものご使用下さい。(セラグラニーの3頭ガンは5馬力以上)
- 4 下地は十分に乾燥してから施工して下さい。乾燥不十分の場合、色ムラ、剥離等の生じる原因となります。
- 5 改装工事の場合、下地の状態を十分に調査し、劣化塗膜の浮き、割れ、チョーキング等の場合、これを完全に除去し、清掃してから施工して下さい。
- 6 金属下地及び釘頭などの上に施工する場合、必ず防錆処理を行って下さい。
- 7 施工にあたっては同一ロット、同一方法で、入り隅、出隅等見切りの良いところまで仕上げて下さい。同一壁面途中での塗り継ぎは色違いやムラの原因になります。
- 8 気温5℃以下、湿度85%以上または降雨、降雪、強風の場合は施工を避けて下さい。
また作業後に、降雨、降雪の恐れがある時は雨(雪)養生をして下さい。なお、夜間の気温が氷点下になる恐れがある場合は、午後3時頃までに作業を打ち切るようにして下さい。
- 9 施工後24時間以内に降雨、結露等水の影響で白化や色ムラが発生し、壁面に残る場合があります。
- 10 湿度の高い場合、乾燥が遅れますので十分換気して下さい。乾燥が不十分ですと色ムラ・剥離等を生じる原因となります。
- 11 低温、高湿度、風通しの悪い場合に白化や色ムラが発生し、壁面に残る場合があります。
- 12 冬期・低温時の施工では溶剤系下塗材(シーラー)を使用して下さい。水系下塗材(シーラー)の場合、乾燥が遅くなるため仕上がりにムラを生じる事があります。
- 13 常に結露が発生する地域・時期での施工は避けて下さい。
- 14 仕上材を施工する場合は、上吹き後、夏期24時間、冬期48時間以上乾燥後施工に入して下さい。
- 15 仕上材(トップコート)の施工にはリシンガンを旨いず、必ずエア塗料ガン、エアレススプレーガン等を使用して下さい。
- 16 溶剤系仕上材の可使時間(セラトップUF(UC)クリヤー、セラトップシリコンM、セラトップシリコンSi)は8時間、(セラトップフッ素クリヤー)は5時間ですので5~8時間で使い切る量として下さい。
- 17 仕上材の工程内間隔時間はマルチップSi、マルチップF、セラトップUF(UC)クリヤー、セラトップフッ素クリヤーで3時間以上、セラトップシリコンMで4時間以上、セラトップシリコンSiで6時間以内(気温20℃、湿度65%)として下さい。
- 18 セラトップUF(UC)クリヤー、セラトップシリコンM、セラトップシリコンSi、セラトップフッ素クリヤーは溶剤系塗料であるため、消防法及び危険物取締条例等関係法令に準拠し、防火、消火、安全衛生等に備えるとともに正しい使用により施工して下さい。
- 19 安全衛生上の注意事項については、下記に掲載していますが、容器の表示も合わせてご参照下さい。
- 20 その他の注意事項
 - ①材料の有効期間は密封保存で6ヶ月以内ですが、早めに使用して下さい。
 - ②材料の保管は気温5~35℃で、密封のまま直射日光を避け、屋内に貯蔵して下さい。長時間貯蔵したものは十分攪拌し、変質の有無を確認して下さい。

※その他、ご不明な点がございましたら、弊社までお問い合わせ下さい。

施工の区切りについて

大面積の場合、施工が困難となりますので、次のような処置を行って下さい。

- 1 躯体目地を利用して下さい。躯体目地に沿ってテープ養生し、1スパン毎に仕上げて下さい。隣接する仕上がり面に施工しないように、アテ板養生又は逆養生を行って下さい。
- 2 テープ等により、目地を設けて下さい。水平及び垂直にテープ等を貼り付けて、目地を設けた後、逆養生してスパン毎に施工して下さい。
- 3 大面積の場合は、設計段階で許される範囲内で、できるだけ目地を設けるようにして下さい。

標準施工仕様

本施工に入る前に試験吹きを行い、吹き付けのタイミング、粘度、塗布量などをチェックし、仕上がりがムラにならないよう確認して下さい。

工程	使用材料名と調合割合	所要量 (kg/m ²)	使用器具	回数	間隔時間
1	下地調整	下地の種類によって適切な処理をする。			
2	下塗材塗布 (ローラー塗り)	セラプライマーカーHi 16kg 清水 0.8~1.2kg	0.2~0.3	ウールローラー 塗料用刷毛	1 3時間以上 3日以内
3	下塗り	グッセラGハイシー 20kg 清水 1.0~2.0kg	0.6~0.9	砂骨ローラー(細目)	1 3時間以上 3日以内
4	上塗り	グッセラGハイシー 20kg 清水 1.0~2.0kg	0.6~0.9		1 24時間以上 (最終養生)

※ 下塗りは必ず対応するセラプライマーカーHiで施工してください。それ以外のものを使用すると色ムラ・色違いの原因となります。

塗装上の注意事項

- 1 下塗材は下地を隠蔽するようにムラなく塗装して下さい。
- 2 グッセラGハイシー20kg/缶に対して清水1.0~2.0kg加え、均一になるまでよく攪拌して下さい。尚、施工前にテスト塗装を行いパターン、ローラーの運び具合、材料粘度を確認して下さい。
- 3 均一にローラーに含ませて、隠蔽するようにムラなく塗装して下さい。
- 4 ローラーで塗布しにくい又は塗装できない部位は、塗料用刷毛で塗りこんで下さい。
- 5 中央面の塗装はタテくばり塗りし、次にタテ、ヨコとローラーを転がしてローラーマークが生じないよう、また、厚塗りにならないようならし塗りして下さい。尚、下塗りはやや軟らかめの材料で、目をあまり立てずに平滑に塗装して下さい。下地に材料がムラなく付着する程度に塗装します。
- 5 素地との付着性とパターン形成の基礎となりますので、素地とのパターンを揃えることが大切です。
- 6 上塗りは材料粘度をやや固めにし、砂骨ローラー(細目)で下地のパターンを活かし、きれいに見える様に塗布して下さい。
- 7 塗装方法は下塗りと同じですが、仕上工程となるので、ならし塗りを特に丁寧に行い、塗りムラを防止して下さい。
- 8 下塗りのパターンと揃うように塗布することが綺麗に仕上がるポイントです。
- 9 既存塗膜のパターン(テクスチャー)により、所要量は変化しますのでご注意下さい。

施工のポイント

- 1 まずコーナー部(入隅)を塗布して下さい。この時、塗布量が多いとひび割れが起こりますので注意して下さい。
- 2 平面塗布は、まずローラー全体に均一につけ、壁面に材料を配るような感じで塗布して下さい。
- 3 この時、ローラーに材料をつけすぎると、既塗布面への重なりにより、ローラーマーク等が生じやすくなりますので注意して下さい。
- 4 入隅、出隅部は塗料用刷毛で塗りこんで下さい。
- 5 配り塗布した材料は、ローラーを上下左右にならし塗りをを行い、ローラーマーク、付着ムラをなくして下さい。
- 6 模様が深くローラーで施工できないポット類、テクスチャーもあります。凹凸が深くローラーが入り込まない場合は、事前に塗料用刷毛等で塗りこんで下さい。

上記の各数値はすべて標準のものです。施工方法・施工条件等により、多少の差異が生じる事がありますのでご了承下さい。
間隔時間は気温23℃(湿度50%)の場合です。気温が低い場合や湿度が高い場合は間隔時間を長めにとって下さい。

下地別の施工(補足事項)

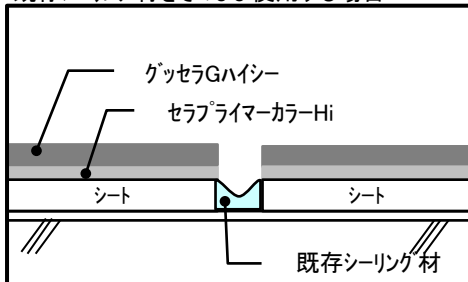
・シート状砂岩の場合

シート状砂岩の目地部には大きく分けて「シーリング材」「セメント系目地材」「防水シート」があります。

また、既存の目地をそのまま活用する場合等、処理方法が異なるため、下記の手順を参考にして処理して下さい。(下記以外の処理についてはお問い合わせ下さい。)

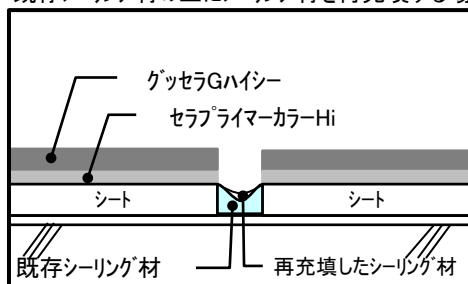
1 シーリングの場合(シーリングの劣化状況等に応じて適切に処理して下さい。)

A 既存シーリング材をそのまま使用する場合



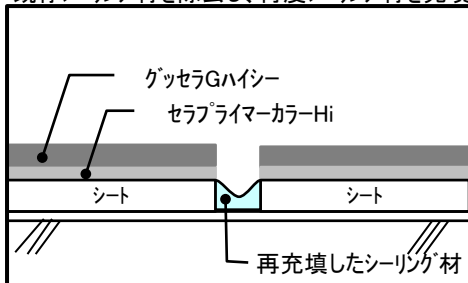
- ①目地部(側面部を含む)を目地棒やマスキングテープ等を使い養生します。
- ②砂岩シート上にセラプライマーカラーHi、グッセラGハイシーを塗布します。
(必要に応じて塗料用刷毛により刷毛目をつける。)
- ③グッセラGハイシー(上塗り)後、塗膜が乾燥する前に養生を取り除きます。
- ④グッセラGハイシー乾燥後、目地部のバリ取りを行います。

B 既存シーリング材の上にシーリング材を再充填する場合



- ①目地部(側面部を含む)を目地棒やマスキングテープ等を使い養生します。
- ②砂岩シート上にセラプライマーカラーHi、グッセラGハイシーを塗布します。
(必要に応じて塗料用刷毛により刷毛目をつける。)
- ③グッセラGハイシー(上塗り)後、塗膜が乾燥する前に養生を取り除きます。
- ④グッセラGハイシー乾燥後、目地部のバリ取りを行います。
- ⑤目地部に沿って、グッセラGハイシー上にマスキングテープ等で養生します。
- ⑥シーリングプライマー塗布後、シーリングの再充填をし、養生を除去します。

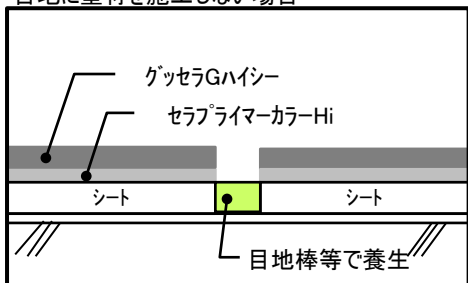
C 既存シーリング材を除去し、再度シーリング材を充填する場合



- ①既存シーリングを除去、清掃します。
- ②目地部(側面部を含む)を目地棒やマスキングテープ等を使い養生します。
- ③砂岩シート上にセラプライマーカラーHi、グッセラGハイシーを塗布します。
(必要に応じて塗料用刷毛により刷毛目をつける。)
- ④グッセラGハイシー(上塗り)後、塗膜が乾燥する前に養生を取り除きます。
- ⑤グッセラGハイシー乾燥後、目地部のバリ取りを行います。
- ⑥目地部に沿って、グッセラGハイシー上にマスキングテープ等で養生します。
- ⑦シーリングプライマー塗布後、シーリングの再充填をし、養生を除去します。

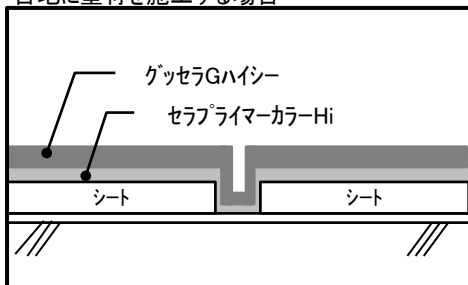
2 ホント底目地の場合

D 目地に塗材を施工しない場合



- ①目地部(側面部を含む)を目地棒やマスキングテープ等を使い養生します。
- ②砂岩シート上にセラプライマーカラーHi、グッセラGハイシーを塗布します。
(必要に応じて塗料用刷毛により刷毛目をつける。)
- ③グッセラGハイシー(上塗り)後、塗膜が乾燥する前に養生を取り除きます。
- ④グッセラGハイシー乾燥後、目地部のバリ取りを行います。

E 目地に塗材を施工する場合

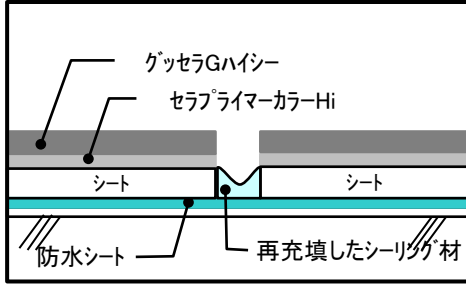


- ①全体にセラプライマーカラーHiを塗布します。目地部は塗料用刷毛等で塗りこみます。この時、目地底にセラプライマーカラーHiがたまらないようにして下さい。
- ②目地部にグッセラGハイシーを塗料用刷毛等で塗りこみます。
- ③全面にグッセラGハイシーを塗布。凹凸の大きい所は塗料用刷毛等で塗りこみます。

※特殊なホントの場合、付着しない事があるのでお問い合わせ下さい。

3 防水シートの場合

F 目地部にシーリング材を充填する場合



- ①目地部(側面部を含む)を目地棒やマスキングテープ等を使い養生します。
- ②砂岩シート上にセラプライマーカラーHi、ゲッセラGハイシーを塗布します。
(必要に応じて塗料用刷毛により刷毛目をつける。)
- ③ゲッセラGハイシー(上塗り)後、塗膜が乾燥する前に養生を取り除きます。
- ④ゲッセラGハイシー乾燥後、目地部のバリ取りを行います。
- ⑤目地部に沿って、ゲッセラGハイシー上にマスキングテープ等で養生します。
- ⑥シーリングプライマー塗布後、シーリングの再充填をし、養生を除去します。

※ シーリング材の上にゲッセラGハイシーを塗布しないで下さい。(ひび割れが起こる可能性があります。)

※ シーリング材の再充填は、ゲッセラGハイシー塗布後、塗膜の乾燥を確認してから行って下さい。

※ シーリング材再充填時は、既存シーリング材の上に各社が推奨するシーリングプライマーを塗布して下さい。
(既存シーリングの洗浄及び除去は、下地処理時に行って下さい。)

4 シートの浮きについて

ボンド不足等による接着不良の場合は、ボンドを注入するかケレン等で部分補修して下さい。

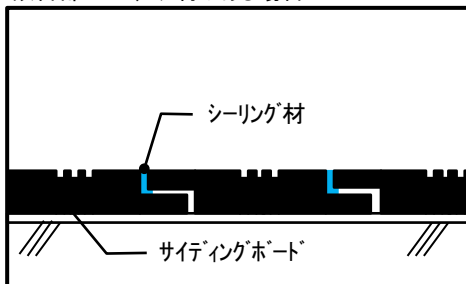
但し、躯体から水が回っている場合は、水の浸入を止めた後、シートを貼り替える必要があります。

- ・ボンドを注入する場合 浮いている箇所に穴を明け、エポキシ樹脂を注入し、圧着して高さをそろえて下さい。
- ・部分補修の場合 シートの浮いている箇所をケレン等で除去、水洗し24時間以上乾燥後、セラエポキシ浸透シーラー<1液>(旧:セラプライマーIS)を塗布。その後、樹脂モルタルで高さをそろえて下さい。
- ・貼り替える場合 浮いた部分のシートを除去後、再度シートを貼り付けて下さい。

・窯業系サイディングボードの場合

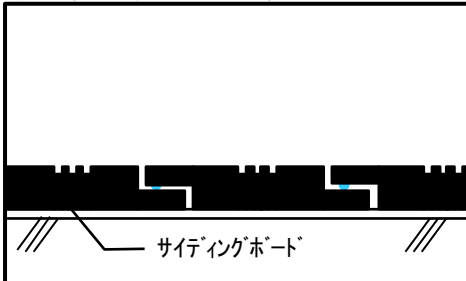
サイディングボードの勘合部には、シーリング材がある場合とない場合がありますが、いずれもひび割れを起こす可能性があり、基本的には塗布できません。下記の手順を参考に処理して下さい。

G 嵌合部にシーリング材がある場合



- ①目地部(シーリング材)の上をマスキングテープ等で養生します。
- ②セラ水性シーラーHi(旧:セラプライマーNW)を塗布します。
- ③セラプライマーカラーHiを塗布します。
(テクスチャーの凹凸は塗料用刷毛等で塗りこんで下さい。)
- ④ゲッセラGハイシーの塗布
・テクスチャーの凹凸は塗料用刷毛等で塗りこみます。
・塗材を厚く塗りすぎますと、ひび割れが発生しますので注意して下さい。
- ⑤目地部の養生を除去します。
- ⑥ゲッセラGハイシー乾燥後、目地部のバリ取りを行います。
- ⑦目地部に沿って、ゲッセラGハイシー上にマスキングテープ等で養生します。
- ⑧シーリングプライマー塗布後、シーリングの再充填をし、養生を除去します。

H 嵌合部にシーリング材がない場合

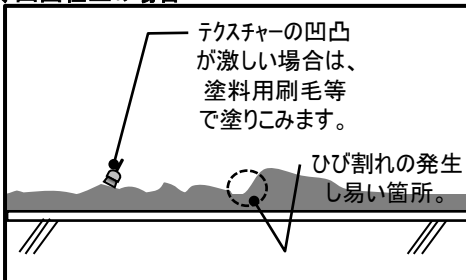


- ①セラ水性シーラーHi(旧:セラプライマーNW)を塗布します。
- ②セラプライマーカラーHiを塗布します。
(テクスチャーの凹凸は塗料用刷毛等で塗りこんで下さい。)
- ③ゲッセラGハイシーの塗布
・テクスチャーの凹凸は塗料用刷毛等で塗りこみます。
・塗材を厚く塗りすぎますと、ひび割れが発生しますので注意して下さい。
※ゲッセラGハイシーの塗布乾燥後、カッターやスクレパー等で勘合部上の縁切りを行います。

※ フッ素及び無機コーティングしたサイディングボードには塗布しないで下さい。

※ 金属サイディングの上には塗布しないで下さい。

・コテ塗り仕上、凹凸仕上の場合



セラプライマーカラーHi、ゲッセラGハイシー施工の際、凹凸が深く指定の使用器具で塗りこめない場合は、塗料用刷毛等を使い、塗りこんで下さい。
 凸の激しい場合は、凸部分をサンダー等でヘッドカットして下さい。
 入隅の凹み部分等に一度に(2mm)厚く塗るとひび割れが発生する恐れがあります。
 段差のある場合、塗料用刷毛で塗材を配り塗りしておいて、その後すぐにローラーで塗ると綺麗に仕上がります。

安全衛生上の注意事項

水系商品対象

取扱い及び貯蔵上の注意

- 1 取扱いは、できるだけ皮膚に触れないようにし、必要に応じて防塵マスク、保護メガネ、保護手袋を着用して下さい。
- 2 取扱い後は、手洗い及びうがいを充分に行ってください。
- 3 子供の手の届かない所に保管して下さい。
- 4 塗装・洗浄・乾燥等を行う取扱い作業場所では局所排気装置を設け、作業中・作業後も充分換気を行ってください。

緊急時及び応急処置

- 1 容器からこぼれた場合には、砂等を散布した後処理して下さい。
- 2 目に入った場合には、直ちに多量の水で15分以上洗い、できるだけ早く医師の診断を受けて下さい。
- 3 誤って飲み込んだ場合には、できるだけ早く医師の診断を受けて下さい。

廃棄上の注意

- 1 中身を使い切ってから廃棄して下さい。
- 2 廃塗材、廃容器、洗浄水等は、産業廃棄物処理業者に委託して処理して下さい。

詳細な内容が必要な場合には、化学物質等安全データシート(MSDS)をご参照下さい。

溶剤系商品対象

通常の塗料に比べて幾分毒性が強く、吸入したり皮膚に触れたりすると中毒やかぶれを起こす恐れがありますから、取扱いには下記の注意事項を守って下さい。

取扱い及び貯蔵上の注意

- 1 火気のある所では使用しないで下さい。
- 2 塗装中、乾燥中、とも換気をよくし、蒸気を吸い込まないようにして下さい。
- 3 取扱いは、できるだけ皮膚に触れないようにし、必要に応じて有機ガス用防毒マスク、送気マスク、頭巾、保護メガネ、襟巻タオル、保護手袋、前掛け等を着用して下さい。
- 4 取扱い後は、手洗い及びうがいを充分に行ってください。
- 5 子供の手の届かない所に保管して下さい。
- 6 40℃以下の一定の場所を定めて貯蔵して下さい。

緊急時及び応急処置

- 1 容器からこぼれた場合には、布で拭き取って水をはった容器に保管して下さい。
- 2 目に入った場合には、直ちに多量の水で15分以上洗い、できるだけ早く医師の診断を受けて下さい。
- 3 誤って飲み込んだ場合には、できるだけ早く医師の診断を受けて下さい。
- 4 蒸気、ガス等を吸い込んで気分が悪くなった時は、安静にし、必要に応じて、できるだけ早く医師の診断を受けて下さい。
- 5 皮膚に付着した時には、多量の石鹼水で洗い落とし、痛み又は外観に変化がある時は、できるだけ早く医師の診断を受けて下さい。
- 6 火災時には、炭酸ガス、泡又は粉末消火器を用いて下さい。

廃棄上の注意

- 1 中身を使い切ってから廃棄して下さい。
- 2 廃塗材、廃容器、洗浄水等は、産業廃棄物処理業者に委託して処理して下さい。

詳細な内容が必要な場合には、化学物質等安全データシート(MSDS)をご参照下さい。